令和８年度

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	国語科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
第１学年	【話す・聞く】 ・語彙力や平仮名の定着度、集中力に個人差が大きい。 ・「人の話を聞く」姿勢やルールが定着していない児童がいる。 【書くこと】 ・自分の思いを言葉で表現すること（書く・話す）に抵抗感がある児童がいる。	【話す・聞く】 ・「～です。」「～と思います。」などの語尾を意識させる。また、「○○さんの話に付け足します。」、「同じです。」など、リアクションのパターンを掲示する。ペアでの対話の日常化を図る。 ・「うなずきながら」「最後まで」「話す人を見て」など聞くルールを徹底させる。 【書くこと】 ・「～が、～する。」などの例文を掲示して、あてはめる形式で書く成功体験をつくる。（ワークシートの工夫） ・友達の文を読み合い、誉め合う活動を採取り入れる。 ・言葉集めゲームの日常化を図る。
第２学年	【読むこと】 ・登場人物の気持ちや様子を考えることが苦手だったり自信がもてなかったりする児童が多くいる。 【話す・聞く】 ・自分の考えを話すことに自信がない児童が多くいる。 ・人の話を最後まで聞くことが十分に定着していない児童がいる。	【読むこと】 ・「気持ちを表す言葉」を活用して取り組むよう指導する。 ・ペアやグループで交流し、多様な考えに触れる機会を設ける。 【話す・聞く】 ・話型（「私は～だと思います。なぜなら～です。」など）を提示する。 ・「聞き方名人」を徹底させる。
第３学年	【読むこと】 ・叙述に基づいて読み取ることが難しい児童が多い。 【書くこと】 ・自分の考えをもち、それを文に表すことが得意な児童と、そうでない児童の差が見られる。 ・語彙が少なく、自分の気持ちや考えを表現したりすることに課題が見られる児童がいる。	【読むこと】 ・「話し方の型」を用意し、叙述に基づいて気持ちや行動を読み取ることを一貫して指導していく。 【書くこと】 ・自分の考えをもてるように、交流をして新たな考えを知る機会を増やす。 ・豊かに表現できるように、接続詞や友達との比較を意識できる掲示物を取り入れる。
第４学年	【読むこと】 ・6～7割程度の児童は文書のおおよその読み取りができる。 ・物語文の読み取りでは、一部の児童が、叙述に基づかず、自分の想像で読み取ってしまう傾向がみられる。 【書くこと】 ・自分の考えや感情を文章に表すことが得意な児童と苦手な児童の差が大きい。	【読むこと】 ・接続語や指示語に目を向け、文章のつながりや指示語が示している事柄を的確に把握させる。 ・物語文を読み取ったときは、本文に線を引くなど、根拠が明確になるように指導する。 ・学習過程に音読を位置づけ、授業の際に、毎回音読指導を行う。 【書くこと】 ・書き方のパターンを提示し、はじめ・中・終わりに書く事柄を指導する。 ・表現する言葉が見つからない児童には、心情を表す「言葉のたから箱」を活用するように指導する。
第５学年	【読むこと】 ・筋道を立てて考えたり豊かに感じたり想像したりしたことを基に、自分の思いや考えを広げることに苦手意識がある児童が多い。 【書くこと】 ・文章の構成や展開を考えながら、筋道の通った文章をかいたり、自分の思いや考えが相手に伝わるよう工夫して表現したりすることに課	【読むこと】 ・思考に関わる語彙を示し、自分の考えを豊かに表現できるようにする。自分の考えと友達の考えを交流し、比較する場面を意図的に設定する。 【書くこと】 ・段落や接続語、修飾語を活用した豊かな表現での文章作りをさせる機会を多く設ける。友

	題が見られる児童がいる。	達の書いた文章の良さを全体で共有し、自分の作文に生かせるようにする。
第６学年	【読むこと】 ・説明的な文章や文学的な文章の内容を大まかに理解することはできている。しかし、文章や人物相互の関係を関連付けて読み取り、根拠を基に自分の考えを明確にしながら読むことができる児童は少ない。 【書くこと】 ・構成や展開を工夫し、読み手に伝わりやすいような筋道の通った文章を書くことを苦手とする児童が多い。また、事実と意見を区別して表現することが難しい児童も一部いる。	【読むこと】 ・着目すべき叙述や描写を全体で確認することで、筆者の主張や具体的な事例を正確に捉えたり、登場人物の心情を豊かに想像したりできるようにする。また、児童同士で考えを伝え合い、共有したり比較したりする場面を多く設定する。 【書くこと】 ・文章を書く前に構成メモを活用し、段落相互の関係や文章全体の構成、事実と意見の区別を整理させる。また、書く過程においては、一文の長さや文章全体のつながりに留意しながら推敲する機会を設ける。また、互いに文章を読み合う時間を設定し、よい表現などを自分の文章に生かせるようにする。